



碑前集会の会場となる深澤晟雄資料館前
(いのちの灯の記念碑は右)

いのちの灯の集い準備進む

大峰順二氏に文化賞

「いのちの灯の集い2017」の11月19日開催に向けて準備が進められています。10月8日のいのちの灯文化賞贈呈委員会で、劇作家で演出家の大峰順二氏に文化賞贈呈が決まりました。

氏は群馬県出身で劇団銅鑼に所属当時、沢内村の生命尊重行政を描いた「燃える雪」の脚本を担当。全国すべての都道府県で上演されて同劇団の代表作

となりました。

平成23年からは沢内中学校で「深澤晟雄物語」、沢内甚句の「およね物語」、中国で稲作指導した「藤原長作物語」の「沢内三部作」を脚本化・演出指導して、同校の文化祭で毎年順番に取り組まれています。

集いには町民多数の参加を

集いは午後1時から深澤晟雄資料館前の碑前集会で開幕しますが、雨天の場合は記念行事会場の太田老人福祉センター(沢内庁舎内)で行います。

記念行事は1時45分から①NPO法人10年の歩み報告②大峰順二氏と沢内の地域力を象徴する出版関係者の「いのちの継承を語る」③灯の集いアピール採択の三部構成です。碑前集会と記念行事には町民の自由な参加をお待ちいたします。

記念祝賀会はNPO法

人設立10周年記念と沢内の地域力に関する著書や資料集出版を祝う会です。5時から沢内バーデンで4千円会費で行います。出席希望者は両NPO法事務局または深澤晟雄資料館(電話0197-8513838)へご連絡ください。

生命行政60周年祝う出版

今年、深澤村長が就任し、生命尊重行政発足から60周年を迎えています。その記念年を祝うかのよう、西和賀の地域力を象徴する著書と資料集が出版されました。2月に東京のすいれん社から「西和賀町(旧沢内村)生命尊重資料」全9巻と別冊が刊行され、10月には東京の生活書院から、大阪大谷大学准教授井上寿美氏、就実短期大学教授 笹倉千佳弘氏共著による「虐待ゼロのまちの地域擁護活動」施設で暮らす子どもたちの『子育ての社会化』と旧沢内村(写真左)が出版されました。両出版物ともいのちの集い会場で展示販売されます。

虐待ゼロのまちの地域擁護活動

井上寿美・笹倉千佳弘 著

その町には虐待で傷ついた子どもの心を包み込む優しさがある。

保健と私の政治理念

②

岩手県和賀郡沢内村

代表者 村長 深沢晟雄



岩手日報文化賞受賞時の深澤村長（右）

住民の生命を守るため私の命を賭けよう

この理念を基にして私は生命をおびやかす三条件、即ち低い意識水準、貧乏、雪の課題解決のため昭和32年村長就任と共にその具体的努力に入った。私の諮問機関として保健委員会を設け、そのメンバーには議会、教育委員会、社会教育委員、婦人会、青年会、区長会、PTA、校長会、農協、病院等の指導者を委嘱し、専ら組織活用の方

方向を辿って今日に至っている。個人別、家族別、部落別の特徴を捉えた村全体の健康台帳の整備に力を入れている現状である。生命行政は予防活動から、予防活動は健康管理から、健康管理は健康台帳から、の標語のできたものもこの頃である。またこの頃から東北大（付属病院長中村教授外）、岩手医大（若生教授外）、秋田県平鹿総合病院（立身院長外）、北上保健所（及川所長外）等の指導協力が愈々深まっている。

び岩手日報賞を受け、偶然ではあるが37年には乳児死亡ゼロの奇跡に恵まれたのである。雪の問題も5年間の努力が実って、昨年は延々50キロの豪雪を突破して盛岡までの定期バスの確保に成功し、今冬からは離れた小部落の生命を守るため雪上車を病院に備えつけることになっている。このようにして暗黒社会にも一条の光がさしかけているとは思いますが、余りにも将来問題が山積しており、例えば全住民の十割給付の問題、妊婦の健康管理や病類別、特に本村特有の高血圧対策の問題とか、さらには水道、住宅等環境整備の案件などを考えると私の頭が重くなる。高い段階の政治解決、いかなれば国の医療制度又は生命行政の抜本的反省を前提とする課題の多いことを思えば暗然とせざるを得ない。

法を用いたり、また、部落毎1名計23名の保健連絡員を置いたり、岩手医大学生に頼んで冬期夏期の大々的保健啓蒙の活動を展開したりした。更には保健モデル部落を数カ所設定したり、保健婦の養成制度を採用したり、また保健相談や育児指導にも格別な力を払った。34年までの3年間は無我夢中の啓蒙時代であったが、35年現院長加藤博士（東北大学中村内科の鬼才）を迎えてから反省期に入り、科学的な体系的な健康管理の

こうした学識経験者をお招きしての健康管理研究会の生まれたのも当然である。全住民の十割給付を公約して、その一段階として老幼（60歳以上、及び1歳未満）十割給付を実施したのも35年である。その後入所命令を受けない長期結核療養者や伝染病患者に対する十割給付を行い、また38年には法施行を待たずに世帯主七割給付を4月から実施している。以上の経緯の中で35年には乳児死亡率低下（25%）による知事表彰及

しかし、私は自分の政治理念を不動のものと考え、内にあつては村ぐるみの努力を惜しまず、更に外からの温かい理解と協力を信じながら、住民の生命を守るために私の命を賭けようと思う。

終わり